

令和 6 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立瓜破東小学校協議会

1 総括についての評価

瓜破東小学校の子ども達は、学力面では大阪市の平均になかなか届かない現状ではあるが、学校生活を楽しんでいる姿を多く見ることができるのは、地域としてとても嬉しく思っている。児童の減少は否めないが、小規模校ならではのアットホームな雰囲気がとても良い。地域としても、子ども達の成長をいろいろな形（登下校の見守りやかけ足大会、PTA 主催の行事等）でサポートしていきたい。【特別活動】の取り組みを盛んにすることで、子どもが学校生活のいろいろな場面で活躍していると聞いている。ぜひ、継続していってほしい。

2 年度目標ごとの評価

年度目標【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を、90%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させ
- 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

学校園の年度目標

- ① 小学校学力経年調査・学校生活アンケートの「学校のきまり（規則）を守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、85%以上にする。
- ② 小学校学力経年調査・学校生活アンケートの「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、78%以上にする。

○いじめアンケートを全学年に年3回（各学期）学習者用端末で実施し早期発見に努め、いじめにあつてると答えた児童には担任が聞き取りを行い丁寧に対応していることは、児童が安心して学校生活を送るうえで効果的な取り組みである。

○定期的に全教職員で「学校のきまり」について見直し、児童指導を行うとともに保護者への啓発を続けていることはよい。

○全校児童が仲良く学校生活を送れているのは、特別活動の取り組みに積極的だからだと考える。

○評価については、妥当であると考える。

年度目標【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を33%以上にする。

○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対大阪市比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.05ポイント向上させる。

○小学校経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。

○小学校経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。

○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を75%以上にする。

学校園の年度目標

- ① 小学校学力経年調査・学校生活アンケートにおける「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を32%以上にする。
- ② 小学校学力経年調査・学校生活アンケートにおける「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を65%以上にする。
- 経年調査では全教科市平均に到達していないが、専科制度を1年生から採り入れるなど指導体制を工夫していることで、児童の学びに向かう姿勢が育ってきているので、この取り組みは継続してほしい。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について、体育の学習は好きというのは学校がいろいろと運動に親しむ環境を整えているからだと思う。PTAや地域が校庭開放をしていた時代もあるが、今は人員・安全面等を考慮するとなかなか難しいのが実情だろう。
- 評価については、妥当であると考える。

年度目標【学びを支える教育の環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

- デジタル教材を活用した学習を週1回実施する。
- 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を50%以上にする。

学校園の年度目標

- ① 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日50%以上にする。
- ② 小学校学力経年調査・校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、70%以上にする。

- デジタル教材の利点は大きいに活用すべきだが、やはり紙媒体での学びを大切にしてほしい。
- 各業種で働き方改革がされている。学校だけが特別ではないということを保護者が理解できるような働きかけを進めていくとよい。
- 読書ボランティアによる「絵本の読み聞かせ」を子ども達が楽しみにしているので、今後も継続できるよう地域も応援していきたい。
- 評価については妥当であると考える。

3 今後の学校園の運営についての意見

小規模校で、PTAの組織も以前に比べ縮小傾向にある。また地域住民も高齢化してきている。しかし、地域・PTA共に瓜破東小学校の子ども達のためにできることは何かないかと常日頃から考えている。微力ではあるが、今後も学校のために協力するので、子ども達が楽しいと感じる学校づくりを進めてほしい。